

# 京都教区時報

第112号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨  
編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

特集 (続)教区全修道院アンケート

**ナイスと呼んで下さい**

**福音宣教推進全国会議**  
(NICE = National Incentive Convention for Evangelization)

**来年11月に!**

NICE ナイス NICE ナイス NICE ナイス NICE

**京都で開催!**

ナイス NICE ナイス NICE ナイス NICE ナイス

第1回目は京都で、3年に一度開催

この集まりは、一人一人が生き生きと、みことばを語る共同体づくりをめざして、日本中のみんなで考えようとするものです。

日本教会の福音宣教への道を、より力強いものに。そうです。信徒の力も、修道者も司祭も司教も、手をたずさえ、今、日本教会で何をしたらいいのか。現代社会に何を訴えればいいのか…考え、実践してゆくためのものです。

小さな手を結び、大きな輪に、大きな力に。この会議は日本で初めての画期的な第一歩なのです。

**開催地提案を、京都教区  
宣教司牧評で受諾決定!!**

# 1986年 京都教区「平和への歩み」の集い

## テーマ 地域の人びとと共に歩む教会

日時	テーマ	講師	備考
6月15日(日)	講演とビデオ 「私を解放するもの」 ～部落問題～	京都市立第三 錦林小学校教諭 井上新二氏	衣笠教会 2:00～3:30PM (1:30より) (ミサあり)
7月13日(日)	在日韓国人・朝鮮人 の共存をめざして	KCCセンター 李 清一氏	カトリック 会館6階 2:00～3:30PM
8月10日(日)	平和祈願と行進 「アジア太平洋地域の戦争犠牲者に 思いを馳せ心に刻む」	(詳細未定)	
10月5日(日)	労働者問題 「友禅染の現場にて」	梶岡恒夫氏	伏見教会 2:00～3:30PM
10月12日(日)	宗教と部落問題	奈良教育大教授 中川喜代子氏	奈良教会 2:00～4:00PM

◆ 8月10日(日)の集いについては、おって御案内致します。

主催 「平和の歩み」実行委員会  
(司祭評・修道女連盟・信徒協議会・諸活動)

今日の日本の社会や文化の中には、多くの人々を弱い立場に追いやり、抑圧・差別している現実があります。教区での平和への取り組み3年めの今年は、「地域社会の人びとと共に歩む教会」がテーマです。  
私たちの足元、地域から、現実を正しく見直し、判断し、行動していくために、より多くの方々が、ご参加下さいますよう、お願い致します。

- 4月
- 1日 佐伯氏、十倉さん教区初動。平和の歩み事務局会
  - 2日 横浜のM神学生来訪
  - 3日 草津幼の園長・主任問題
  - 4日 同問題緊急会、佐伯氏出向、岩崎氏主任
  - 5日 聖母学院小新校舍祝別、ミサ
  - 6日 同感謝ミサと竣工式
  - 7日 徳川氏来訪。MGN P一行四名
  - 8日 SS ND 新旧地区長来訪
  - 9日 マリスト管区長来訪。訪問会
  - 10日 草津新院長ほか来訪。SS ND 小代表来訪
  - 11日 来客と比叡山表敬訪問
  - 12日 京ロイヤル立休駐車場竣工式
  - 13日 宇和島・戸島巡礼
  - 15日 信愛母の会、聖母新校長来訪
  - 16日 GM管区長来訪。平和の歩み実行委。国際電話(V諸宗教)
  - 18日 Sr.関、Bp.相馬来訪(聖書の好きになる講座)国際電話
  - 19日 他カリタス会理事會。延暦寺代表来訪。教区司牧評常任委
  - 20日 シヤド大司教来訪
  - 21日 同大司教案内。南信協社年部
  - 22日 同南京司教案内
  - 23日 女子OP総長来訪。永平寺より電。国際電話
  - 24日 M(クラレチアン)師来訪
  - 25日 司祭評常任委
  - 26日 オブス代表来訪。教区内男女管区長会
  - 27日 白石園遊会(大原)。訪問客多数
  - 29日 高野堅信ミサ
  - 30日 三重県信徒大会(四日市) 比叡山集會(諸宗教)



「司祭のころのローマでの体験について話して下さい。」  
私は今まで何十回となく、黙想会に出たり、教理の話などを聞いてきましたが、心に残っているものが少ないのです。特にローマでの講義や会議はまたむずかしいラテン語でわかりにくい。  
その時、たまたま新求道共同体に出会う機会があったので約2ヶ月間、週2回ですけど通ったのです。そこでは信徒が中心になって話をしていました。何かすばらしいことをする時は、だいたい信徒がやってくれるんです。スペイン語をイエズス会の神父様が通訳してくれました。その中で私が受けた大きなことは、「自分自身が奉仕の精神で人に仕えること」です。その2年後司教に任命され、十字架の道が始まったのですが、あの時の新求道共同体との出会いが今も心のささえになってます。」



# ナイス (福音宣教推進全国会議) 開催地 京都について話し合われました

## 第一回 宣教司牧評議会

86年5月10〜11日

### ★10日(土)★ 報告

(1) 50周年記念事業実行委員会の歩みについて

●各委員会(行事・記念誌・資料収集委員会)は3月から5月にかけて個別に集まりを持っており、6月7日に、実行委員会が開かれる予定。

(2) 宣教司牧評から司教団へ出した手紙、基本方針と優先課題についてのお答え

(3) 平和の歩みの86年度の取り組みについて——時報P2を参照

(4) 各組織がかかえている問題を持ちより、今後、教区で優先的に取り組むべき問題について

●福音宣教共同体を作り上げるためには、私たちがかかえている問題を拾いあげ、持ち寄り、整理し優先順位を決めて具体的に取組む事が必要であろう。

●各評議員は出来るだけ多くの意見をまとめ、7月末日までに、事務局まで報告してもらう。

### ★11日(日)★

I 教区補助金審査委員会について

●超小教区的活動グループに対する補助金の審議を司祭評でしていたが、これは司牧評の任務だとし、司牧評に委ねられた。

①補助金検討委員会として、委員は宣教司牧評のメンバーで発足し、補助金のあり方を検討してゆく。その結果を8月の常任委員会で報告し、承認の上、審査委員会として発足する。

②その委員として、  
Frルカス(司祭評)

Sr米屋, Sr大森(修女連)  
井上氏, 佐竹氏, 岡本さん(信徒)

大八木氏(諸活動)  
が当り、教区事務所のFr齋木と川村さんが助言者として加わる。

③検討委員会が審査委員会として継続する。任期は一応、12月31日とする。

II 87年度 福音宣教推進全国会議 (ナイス) 開催地を京都で、という打診についての検討

●その過程についての奥本議長からの説明。田中司教より、ナイス中央実行委員会より送られた「原案」についての説明。

●教区50周年との関わりを考えながら討議に入った。

①福音宣教推進全国会議(ナイス、以下、ナイスと呼ぶ)は、50周年行事と関わりなく行われる。京都教区としても、いつ、どこで行われようかと参加するものである。

②京都で行われるとして、教区としてなすべき事は、会場提供に関わる協力が主である。

③開催候補地として京都があげられた事について、評議員の意見を書類で回答を求めたところ、2名を除いてほか全員賛成。反対意見も建設的意見に基づく懸念から来るものであり、全員賛成と見なし、4月11日付、京都受け入れを答申、司教は受諾した。

④宣教司牧評として出した要望は

(1) 出来るだけ質素に  
(2) 11月23日の教区創立記念日を共に祝っていただけないか

(3) オブザーバーとして教区民が全体会議に参加する許可

以上の3点で、6月の司教総会の決定を待って実際に取組むをはじめ。

⑤中央実行委員が要請している(イ) ナイス準備委員(ロ) ナイス代表委員選出(ハ) 7月6日、ナイス説明会の代表者選出などについて、常任委員会に一任する。

このため臨時常任委員会を6月20日に行なう。

⑥京都が会場を受け入れる事を前提として、中央との受け入れの窓口は常任委員とし、「会場準備委員会(仮称)」に委託し受け入れ体勢を整える。

⑦50周年実行委員会としては11月23日を教区と共に祝っていただければという要請を願いたい。

⑧50周年、ナイスへの盛り上がりのための意識化のための工夫をする。

⑨青年が中心になる様な試みを工夫してほしい。

⑩評議員だけでなく、出来るだけ多くの人々の福音宣教に対する意見の吸い上げの努力。



# 修道会とつながった 宣教共同体づくりをめざして(下)



## 信徒と修道者

キリストにおける兄弟姉妹なんだから

女子修道院にアンケート

# ふれあうことからはじめよう



## 小教区活動にメンバーとして入り 交わりたいと思っています

教区、小教区とのつながりを、どのようにしていききたいとお考えですか？

教区内女子修道院アンケートのまとめの一部を先月号でご紹介しました。そして修道者が信徒の皆さんとの交わりを、もっと大切にしたい、神の民全体の横のつながりなしでは神の国の建設に取り組みないと、意識し始めていることをお伝えしました。

さて、今回は「コミュニケーションのとれた宣教共同体づくり」に焦点を当ててみました。そしてアンケートをもとに、数人のシスター方と、率直な意見を交換し合いました。

前号の「小教区の信徒と交わる機会についてどう思いますか」との問いに、全員が「必要」「大切」「よいこと」と答えられています。さらに、「今後、教区、小教区とのつながりをどのようにしていきたいとお考えですか？」の問いに対し次のような回答をいただきました。

●信徒との交わりを大切にして信徒と共に自分がいたただいたカリスマを生かして教区に役立ちたいと思う。

●小教区活動の中にメンバーとして入り交わりたい。

●教区、小教区の行事に参加することからはじめたいと思うけれど、どうか。

●日曜日のミサのとき、もう少し

### 私の喜び



⊗深い祈りに入るチャンスが度々得られる。そんな時、仲間と趣味や意見の相違を越えて、互いに愛し合い尊敬し合える時。

⊗人々から一般には言えない悩みの打ち明けや相談に私を使ってくれた時。

⊗小さい人たちが、貧しい人々が大切にされている事聞き、見、感じられる時。

⊗信徒のリーダー養成に協力できた時など。

⊗自分が新しく変えられていくのを感じた時。人々の中で一杯働けたときに神様の力を味わう時。姉妹と共に喜びや悲しみ、苦しみを分かち合う時。

交われたらましと思うが。  
●修道院にミサがない時、教区ミサにあずかることよって一つの機会としたい。

●仕事が忙しいのでなかなかむずかしい。

●あまり考えたことがない。

●わからない。

●積極的な答えの反面、仕事が忙しいので、なかなかむずかしい、という本音も聞かれ、修道会事業体への奉仕の大切さの陰に、修道院が教区・小教区地域にどれだけ根付き、また地域社会に奉仕しているかという意識がいささかすんでいるという印象もぬぐえませんでした。

# これからの 修道会を語る



出席者 (ABCは順番と関係ありません)	
ウィチタ聖ヨゼフ修道会	Srアグネス
ノートルダム教育修道女会	Srホスチ
ヌヴェール愛徳および キリスト教的教育修道会	Sr平沢
時報編集部	Sr大森
	Sr米屋 磯野

## 小教区の一員 という意識が大事

A 最近小教区のミサにいくようになりましたけれども、小教区の活動にはあまり参加していませんね。個人というより事業体としての関わりが強いですね。

B 土曜学校など信徒の方々がリーダーシップをとってやっておられるので、シスター方の小教区への所属感というのはいりません。

C 信徒の方々が一生懸命やっていますのでシスターがでな

い方が今の教会の理想なのは、それに神父様方も信徒の方が活発に働かれる方が喜ばれるのでは。

A そうじゃなくて、私が小教区に帰属しているかどうかという問題だと思っんですよ。

シスターが仕事をするかしないかではなく、私は教会の一信者のメンバーとして、どういう意識をもっているだろうかということだと思っんですよ。

B 私も、教区・小教区の行事に参加することからはじめたいと思いますね。だからウォーカソンの時でもシスター同志ではなく信徒の方々といっしょに歩くようにしなければいけないと思いますね。

D 信者さんといっしょにやっているとという関わりの中で、私達がそれぞれの場で各家庭の信徒の方と交わりながら問題意識をもっていくことが大事なのでは。

E 福音宣教共同体と書いてあると信徒の方もシスターも何かむづかしく感じられるのはちよつと

飛躍していると思うので、やはり信徒と仲よく、お互いに横のつながりをというのが、福音宣教共同体につながるのでは。

A そしてね、もっと気軽に互いに話せたり、仕事をたのみ、悩みを言い合えたり、信者さんとの人間的なつながりね。

## 横のつながりを 深めていくには

B 教区時報を利用すれば……。

A それぞれのいろんな事業体の中でその事業に関する専門家がいて、と思うんで、そういう人達をよく知っていて、いろんな問題がでてきた時には、その人達に聞けるように教区事務所なりがリストを持って、教えてあげたらと思っんです。

E あーそうですね。リストづくりがありますね。

A 教区の中に何人か「あらゆる相談うけたまわります」というような感じでシスターだけでなく信徒の方にも交わっていたらいい意味でのたすけあいってものができればいいですね。



※すきみのピークが終わり、少しづつ光が見えはじめ、自分が新しく変えられようとする間、神様のまなざしを深く感じます。愛と勇気と喜びがわいて来て、こんな時こそ、謙そんになれる。

## 私達のできること からはじめたい



D むづかしい事で関わっていくのではなく、生活の次元での具体的な分ち合いの中で信徒の方とつながりができたらいいなあと思っんです。

A 小教区の一員として何か始めていきたい。挨拶やミサに出ていく事からまず始めていきたいですね。

C 教会の一員であるという自覚をもつてまず私も何かできる事から始めたいですね。

B 教区の中の催し物に積極的に参加していくことから始めていきたいですね。おこがましいですが、自分の姿勢によって皆が変わります。

女子修道院アンケートまとめ

修道者一人ひとりが

自分のできるものを

みつける



「修道生活の中でどんな時に、一番喜びを感じられますか」との問いに、修道者のあふれる程の喜びの答えに出会うことができました。

修道者に与えられた大きなその喜びをもっと、教区共同体に生きたものとなるには、どうすればいいのでしょうか。

●互いに連絡を密にし、互いのニードを聴き合い、協力し、チームワークやネットワークのようなものができたらと思う。

●キリストに於ける兄弟愛の分ち合いの場として、そのつながりを大事にして行きたい。

集まって下さった修道者の発言の中に、

「シスター一人ひとりが、人とのつながり(教区宣教共同体)の中で、まず、自分に何ができるか。どのような宣教のしかたができるかを知ることから始まるのではな

いでしょか。」

「そして、いろいろな宣教活動をして、信徒や修道者、司祭たち相互の理解を深めるコミュニケーションは絶対必要です。」

●修道者一人ひとりが自分の出来ることを見つけて、言い換えれば、自分のカリスマ、信仰、使命をひっくり返した自分の再発見、自分自身とのコミュニケーションではないでしょうか。その結果としてこの意識、自覚が修道者一人ひとりに深まってゆけば、教会の活性化となり、神の民の横のつながり、信徒とつながった宣教共同体が育ってゆくのだと思います。

(Y)

私の喜び

●姉妹や信徒の方々と信仰体験を分かち合うことができた時に喜びを感じ、豊かにされます。



私達、信徒はまだまだ修道会というのを知りません。そして、

多くの方が修道会と信徒というのには分け隔たったものと思つています。しかし今回のアンケートから、

シスター方の仕事内容、また大変お忙しい状態、さらに、そうした忙しい状況でありながら小教区の信徒の方と、もっと交わり

たいという気持ちを持つていらつしやるのがわかりました。でも、回答の中には、まだ小教区の信徒の方と交わるということが理解

されていない方、仕事が忙しいから、誰かが交わつていなければならないという方などもありました。

しかし、毎日の仕事の忙しいのは信徒も同様です。また、シスター方とどのよう

に交わればよいのか分からないという信徒の方も多

いと思います。このような悩みをどのようにしていけばよいのでしょうか。

現在の教会の動きの中、私達は今本場に多くの悩みをかかえ、どのように福音を喜びをもってすすめてよいのか模索中です。ですが、

まず「私達一人ひとりにはキリスト

編集を終えて



兄弟である  
喜びを感じていますか

のからだであり、神の民として共に生きていく兄弟である」という自覚から共同体ははじまるのではないのでしょうか。

とにかく、お互いにふれ合う事。それによって、各々が与えられた恵みに気づかされ、キリストにおける兄弟である喜びを一層、確認することができるようではないでしょうか。

現代の社会にあつて、シスター方の生き方は、これからの教会、地域社会に大きな影響を与えていくと深く感じます。

私達、信徒ももっともつとシスター方とふれ合い、横のつながりを深め、み言葉を喜びとして語れる共同体づくりに共に励むことができるよう努力しなければならぬと思います。「福音宣教」その言葉の前に一

歩退きたくなるが、何も難しく考えず、自分のできることから始めてみてはどうでしょうか。

そして、この企画を通し、修道者の皆さんと、信徒の皆さんの間に少しでも親しみができ、横のつながりが広がることを希望します。

(い)

### 子供達が集まって 来やすい教会って何だろう

山科教会  
青木 公子

教会の仕事の中で、日曜学校のリーダーになると言うのは、実際やってみて、本当に大変なことでした。やってもやっても、これできた、完成したのだというものは見えてこないし、なかが完成なのかわからない仕事です。

問題点もたくさんあります。リーダーの人数、場所、内容……。しかし一番大きな問題は、リーダーの時間的負担が大きいということだと思ふのです。それに、教会の中で日曜学校が盛んになればなる程、日曜学校そのものが教会から離れていってしまうような気がします。それは、リーダーがいそがしくて、教会の他のグループ、仕事に入れなくなる、又それによ

つて、つながりが細くなる。私は、リーダーも教会の一員であるし、教会全体が子供達を育てていくのだ、

と考えたいので、日曜学校だけが一人歩きしては困ると思います。リーダーは、どうすれば日曜学校以外の仕事にも参加できるのか、教会は、日曜学校とどのようにかわるかをお互いに考えてほしいのです。それから、子供の信仰教育を日曜学校にだけたよるのもまちがっていると思います。そしてもう一つ、ミサを子供達の苦痛の場所にしないように考えたいと思います。

今、教会の中で子供達は大変大切な存在だ、と私は思います。子供達が集まって来やすい教会にならなければとも思います。それは、子供達はいつかきつと、おとなになつて次の世代の担い手となるからです。おとなの人達にはいつもこのことを考えていてほしいのです。子供をもつ親だけが考えるのではなく、子供達を教会全体の子供として考えてほしいと思います。

子供ぬきの教会はありえないしお父さんお母さんぬきの教会もありえない。お年寄りも、そしてみんな一緒に一つの家族です。又、小教区だけ京都教区だけではなく、地球全体が神様の家族だということを、今一度考えなおしたいと思っています。

## きょうと◆しが◆なら◆みえ

### 共同司牧の先取り

#### 南山城地区合同運動会

南山城地区合同運動会も、第八回を数えるようになった。山科、九条、伏見、桃山、宇治、八幡、田辺、精華の八教会とスノーピー、フレンドリーハウスの二つの身障者施設の参加のもとに、村上司教代理をお招きして聖母学園グラウンドにおいて4月29日晴天に恵まれ盛大に行われた。

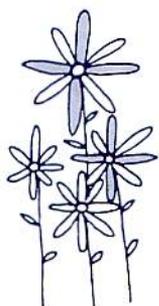
この運動会は、近隣教会同志で教会一致運動の一端になればと願つて続けられてきたのだ。今年の四旬節司教教書の中に共同司牧という課題が出てきた。わたしたちは、すでに八年前にこの課題に出合つていたので、今、新たに考えさせられた。

競技が進むにつれて一喜一憂の歓声がグラウンド狭しと響きわたつた。今年は、身障者の皆さんが積極的に各ゲームに参加し、どれも途中で断念せず最後まで頑張っ

た。走れない足で走り最後まで歩いてでもゴールに入つて行つた彼ら、競技を諦めずに自分たちだつて出来るのだ、やるんだ、皆と一緒になつて頑張るのだと内に秘めた闘志は希望が燃えているように見えた。身障者、健常者が分け隔てなく共に一つの目標に向かつて助け合い励まし合いながら、遅れでもゴールに入つてくるまでみんなが声援を送り拍手で迎えた光景は印象に残り楽しい交わりの一日であつた。

合同運動会がこのように長く継続されているのは、わたしたちみんなが一致を求めている証しだ。助け合い励まし合つて続てきたのだ。運動会で見事な一致が見られますように共同司牧の課題においても、もうわたしたちは、一から始めるのではなく先取りをして目標に向つて走っているように見えた。

(松尾)



語って下さい



# お知らせ



## 教区スケジュール

6月

7～8日 召命練成会 (洛星)  
 10日 三重地区司祭会議 (上野)  
 13～15日 京都北丹地区  
 マリッジ・エンカウンター  
 奈良青年 S A D E

23日 京都南部司祭集會  
 27日 S V P 京都中央理事會

## 平和への歩み

### 講演会



日時 6月15日(日) PM 2:00～3:30

テーマ

講演とビデオ

「私を解放するもの」～部落問題～

講師 井上新二氏

(京都市立第三錦林小学校教諭)

場所 衣笠教会

(当日 PM 1:30 よりミサあり)

## Yご参加下さい

### 聖書深読入門の集い

日時 6月21日 PM 6:00～22日 PM 3:00

場所 宇治カルメル会黙想の家

指導 奥村一郎師

費用 5,000円

×切 6月15日(定員26名先着順)

連絡先 078-851-2686 木村夜8時以降

持参品 聖書、筆記用具、洗面用具、ぬまき

## Yメンバー募集中

### CORO CELESTE

(カトリック婦人有志によるコーラス)

日時 第2・4木曜日

10時30分～正午

場所 河原町教会地下ホール

連絡先

岡田 ☎(075)701-3363

柳本 ☎(075)441-7147



Sr. Sr. エミリー中村

Sr. フランシスコ前嶋

スヴェール愛徳および

キリスト教的教育修道会

Sr. マリールイズ上田

Sr. マリアルフォンズ鷹取

ノートルダム教育修道女会

Sr. M・ドロレス石崎

Sr. ベルナルド岩井

Sr. メリ・アン押山

Sr. レジナ樺山

Sr. マルチナ中里

Sr. セシリア川村

Sr. ジュネヴィヴ佐藤

Sr. フランシス田北

Sr. ベアトリス田中

Sr. クリスチン畑

Sr. レオナ松島

Sr. ヴァージニア渡辺

Sr. メリノール女子修道会

Sr. エミー米屋

## 金祝・銀祝おめでとうございます

- Sr. ウイチタ聖ヨゼフ修道会
- Sr. ヴィクトリン・ブーザ
- 聖ドミニコ女子修道会
- Sr. マリア・ディアナ竹中
- 聖母訪問会
- Sr. パプチスタ平田
- メリノール女子修道会
- Sr. マーガレット・エル
- 25周年
- ウイチタ聖ヨゼフ修道会
- Sr. マリア・アスンブタ大江
- Sr. コーデイスメリー堀江
- カロンデレット聖ヨゼフ修道会
- Sr. マダレン・マリー中津
- 聖心のウルスラ宣教女修道会
- Sr. ソフィア井川
- 聖ドミニコ女子修道会
- Sr. マリア・ミゼリコルディア中村
- 聖母訪問会
- Sr. ドロロザ川口



「人口の上では世界の6%にすぎないアメリカが、全世界資源の約35%を消費し、しかもGNP対比の経済援助率では先進16ヶ国中14位であることを国民が知れば、冷笑と無関心にとじこもり、問題から目をそむけるようなことはしないでだろう。」マクナマラ世界銀行総裁の言葉だが、少し数字を変えれば、そのまま日本にあてはまるではないか。(二)

## ♥第11号(5月号)訂正とお詫び

P.8 お知らせ

教区スケジュールとチャリティコンサート

(誤)小羊会→(正)羊会

平和への歩み講演会

(誤)講師小笠原享一氏→(正)小笠原亮一氏

(誤)テーマ「非差別部落に住んで思うこと」

と→(正)「被差別部落に住んで思うこと」

皆さんご訂正下さい。編集部よりお詫び申し上げます。

本紙を福音宣教に役立たせるため、

「近所、お友だちにもお見せ下さい。」